

## 平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

### 1. 学校概要

学校名 北九州市立 市丸小学校 (福岡県)

種別 保育園・幼稚園     小学校     小中一貫教育  
中学校     中高一貫教育     高等学校  
教員養成     技術/職業教育  
特別支援学校     その他 ( )

所在地 〒803-0183  
福岡県北九州市小倉南区大字市丸472-2

E-mail ichimaru-e@kita9.ed.jp

Website \_\_\_\_\_

児童生徒数 男子 43名     女子 43名     合計 86名  
児童・生徒の年齢 7歳～12歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

別データ (Word) で送信

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）

環境

地域の人・もの・こととのかかわりを通して主体的に学ぶ環境教育

## 1 目標

地域の「人・もの・こと」の素晴らしさを感じ、故郷「市丸」への誇り（愛着心）をもって環境の保全や創造に主体的に取り組む子どもを育てる。

## 2 ESDの要素と重視する能力・態度

### ① ESDの要素

#### <多様性>

私たちを支えている自然環境は起源・性質・状態などが異なる多種多様な事物から成り立ち、そこでは常に多種多様な現象が起きている。これらの多様性を認め尊重し、事物・現象を多面的に見たり考えたりできるようになることが大切である。

#### <有限性>

自然・文化・社会・経済は有限の環境要因や資源に支えられている。このため社会の発展には限界があり、未来世代のために有効に使用していくことが求められていることを認識することが大切である。

#### <連携性>

持続可能な社会の構築・維持のためには、多様な主体相互の連携・協力が不可欠である。意見の異なる場合や利害の対立する場合においても、その状況に順応したり調和を図ったりしながら互いに協力して問題を解決していくことが大切である。

### ② ESDの視点に立って重視する能力・態度

#### 【未来像を予測して計画を立てる力】

絶滅が危惧される植物を未来世代に残していくことを目指し、校地内に人工池（ミニお糸池）を改造して植物の生育に必要な環境を整え、種の生存を守ろうとする。

#### 【他者と協力する態度】

専門家や地域の方々と共に、植物が唯一自生できている「お糸池」の水質調査や作業に年間を通じて参加し、協力・協働によって環境保全に努めようとする。

#### 【つながりを尊重する態度】

地域の「人・もの・こと」をつないでいる「地域や自然を守りたい」という人々の願いと努力を尊重し、自分とのつながりやかかわり方を考え、積極的に活動しようとする。

## 3 概要

第6学年 総合的な学習の時間における実践

○単元名 「守ろう！私たちのガシャモク ～ミニお糸池改造プロジェクト～」

○単元設定の理由

本校では、毎年6年生が日本で唯一校区に自生する絶滅危惧種の水草「ガシャモク」の保全活動を継続している。主に大型水槽での栽培・観察活動を行ってきたが、本年度は例年になくガシャモクの生長に被害が出たため、児童達の間「ガシャモクの生長にとって適した環境は何か」

を追求する意識が高まり、牽いては校内に設置されている「ミニお糸池」を自分達で再整備（改造）することで、ガシャモクを守り、育て、増やしていこうといく計画を立ち上げるに至った。

○【つかむ～見通す】段階

①先輩達の栽培・観察記録を参考に、大型水槽でガシャモクを育てる。



②お糸池を守っている専門家や地域の方々から、ガシャモクについて学ぶ。



③専門家や地域の方々と共に、池の水質調査や生物調査に参加する。



○【さぐる～まじわる】段階

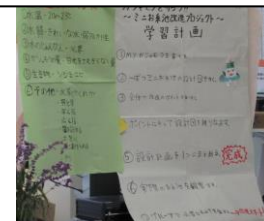
①次々にわいてくる疑問や課題に試行錯誤。

「なぜ市丸にだけガシャモクが残っているのか？」  
 「藻の大量発生、水も白くなりガシャモクのピンチ」  
 「ガシャモクの生長に最適な環境を作りたい」

②しよくがを植えて「マイガシャモク」を育てよう。



③これまでの学びを基にミニお糸池を改造し、マイガシャモクを育てる計画を立てる。



○【まとめる～ひろげる】段階

①ミニお糸改造プロジェクトスタート！



②完成したミニお糸池にマイガシャモクを入れた。この後、卒業記念に掲示板も作り、後輩達に残す。



③アサザ基金主催の「かっぱ大交流会」（於、茨城県牛久市）で実践を発表。



## 4 成果と課題

○ 成果

G Tによる授業や保全活動等、専門家や地域の方々と接する機会を多くもてたことで、児童達は体験を通して「地域や自然を守ろう」とする人々の願いや努力の尊さを学ぶことができた。また、「自分のガシャモクを自分たちの池」で育てる活動をきっかけに、協力・協働の態度も成長した。

○ 課題

ガシャモクを学習対象にして10年が経過した。これまで様々な観察・実験を行い、資料データも残っているので参考になる反面、児童の発想から課題を設定することが難しくなっている。本実践を基盤として、児童のガシャモクへのかかわり方に新たな方向付けをしていく必要がある。